

第 52 回目 主にあって強くあれ (7)

はじめに

【新改訳改訂第 3 版】エペソ人への手紙 6 章 17 節

救いのかぶとをかぶり、また御霊の与える剣である、神のことばを受け取りなさい。



●サタン戦略に対抗するために、神が備えて私たちに与えてくださっている神の武具をこれまで学んできましたが、今回はその第六番目の武具である「御霊の与える剣」、すなわち「神のことばを受け取る」ことについて学びます。これまでの五つの武具はすべて防御用の武具でしたが、今回取り上げる武具は、攻撃用の武具です。

●「御霊の与える剣」と訳されていますが、原文は「御霊の剣」となっています。すなわち、その剣とは「神のことば」(「レーマ・セウー」 $\rho\eta\mu\alpha\ \theta\epsilon\omicron\upsilon$ )です。それを「受け取りなさい」(命令形アオリスト)とパウロは語っています。命令形アオリストは、自ら、自覚的に、主体的に、そうしなさいという命令形です。こけは「救いのかぶとをかぶる」の「かぶる」と訳された動詞と同じです。つまり、「かぶと」の場合は「かぶりなさい」となり、「剣」の場合は「受け取りなさい」と訳されているのです。

1. 悪魔の策略の特徴

●さて、私たちの日常生活に執拗にアタックしてくる悪魔の攻撃の背景には「策略」(戦略)があります。本来、策略というものは敵に対して見せたり、聞かせたりしないものです。しかし、聖書の中には敵の策略の手の内を明かしている箇所があります。「戦術」にはいろいろな方法が一手を変え、品を変え—ありますが、策略(戦略)というものは一つです。「悪魔の策略」の特徴とはいったい何でしょうか。そこから始めていきたいと思います。まずは、サタンの誘惑についての二つのピクチャーを取り上げます。

●聖書で初めて神の敵が登場するのは創世記 3 章です。神の敵であるサタン(悪魔)は蛇という化身で、人間を誘惑しました。「あなたがたは、園のどんな木からも食べてはならない、と神は本当に言われたのですか。」。エバは答えました。「私たちは、園にある木の実を食べてよいのです。しかし、園の中央にある木の実について、神は『それを食べてはならない。それに触れてもいけない。あなたがたが死ぬといけないからだ』と仰せになりました。」。するとサタンは、すかさず、「あなたは決して死にません。」と断言しました。一実は、神は「食べるそのとき、必ず死ぬ」と言っていたのです。ところが、エバは、「死ぬといけないからだ」と、神の言う通りに確信をもって答えず、「死ぬといけないから」というふうに、(ひょっとしたら死なないかもしれない)という含みのある言い方をした時に、悪魔はすかさず「あなたがたは決して死にません」と神と全く反対のことを言ったのです。これが戦術です。そして続けてこう言ったのです。よく聞いてください。「それを食べるとあなたの目が開け、神のように善悪を知る者となることを神は知っていて、それで、あなたたちに食べるな、と言ったのです」

という新しい知識を与えました。このことばは、最初の人間であるアダムとエバの心をどのようにさせたでしょうか。

●第二のアダムと言われたイエシュアに対してもサタンは誘惑してきました。イエシュアはその働きを公にする前に御霊によって荒野に導かれました。その時にイエシュアが受けたサタンの三つのささやきがあります。それは、アダムとエバに対してとった戦術と同じではありませんでした。イエシュアに対する戦術的なささやきは以下のとおりです。

### (1) 「あなたが神の子なら、これらの石をパンに変えてみなさい」

●イエシュアが40日40夜の断食を終えて、空腹を覚えられたときに、悪魔が語ったことばです。「あなたが神の子なら」どんなことでもできるはずですが、その神の力を現わして石をパンに変えてみたらいかがでしょうか。そのような立場と力をあなたは持っておられるのですから、と。これに対してイエシュアは『人はパンだけで生きるのではなく、神の口から出る一つ一つのことばによる。』と書いてある。」と答えました。どこに書いてあるかということ、旧約の申命記の中にあるみことばです。イエシュアは自分にある神の力を用いることをしませんでした。

### (2) 「あなたが神の子なら、下に身を投げてみなさい。神があなたを守ると書いてあるから」

●すると悪魔はイエシュアを聖なる都に連れて行き、神殿の頂に立たせて言いました。「あなたが神の子なら、下に身を投げてみなさい。『神は御使いに命じて、その手にあなたをささえさせ、あなたの足を石に打ち当たることのないようにされる。』と書いてありますから。」今度は、悪魔の方も聖書のことばを用いて「・・・」と書いてあると言ったのです。ここでも悪魔は「あなたが神の子であるなら」と言っていることに注意してください。「あなたが神の子であるなら、そのことをもっと公に示すべきでは・・・」という誘いです。この誘いに対してイエシュアは何と言ったでしょう。「あなたの神である主を試みてはならない」とも書いてある、と言ったのです。

### (3) 「もし、あなたが私をひれ伏して拝むなら、私はすべての国々とその栄華をあなたに差し上げましょう」

●そこで、悪魔はイエシュアにこの世のすべての国々の栄華を見せて、「もしひれ伏して私を拝むなら、これを全部あなたに差し上げましょう。」と提案しました。この提案の意味するところは、「あなたが神の子としての力を示されないとしても、あなたが私を拝むなら、私があなたにこの世の栄華を全部与えましょう。そしてあなたは栄光を手にするのです。」という提案です。この提案に対するイエシュアの答えはこうでした。「引き下がれ、サタン。『あなたの神である主を拝み、主にだけ仕えよ』と書いてある。」すると、悪魔はイエシュアを離れていきました。悪魔の戦術に対してイエシュアは終始、「・・・」と書いてあると言って神のみことばを突きつけて行きました。

●第一のアダムに対して、第二のアダムであるイエシュアに対して、サタンの戦術はまちまちですが、戦略はい

ずれも同じなのです。どこが同じなのでしょうが、悪魔の策略は、人の心に「神に対する不平と不満、そして疑心」を呼び起こすことです。 アダムに対しては「俺は神のように自分で善悪を判断して、神のように何でもできるはずなのに、神は俺を押し留めている。そうさせないようにしている。」と思わせること。イエシュアに対しては、「あなたはれっきとした神の子なのだから、その力を存分に使えば、すべての必要を得ることができるし、人々をあっと言わせることだってできるし、この世の富と地位と名誉を得ることなど、たやすいことだ」と思わせることでした。

●悪魔の戦略はアダムに対しては成功しましたが、イエシュアに対しては全くの失敗でした。悪魔がいつの時代でも私たちが誘惑する場合には、私たちの心になんらかの「不平不満、そして疑心」を与えることが一番だ、と知っているのです。実際に、犯罪として罰せられる殺人、窃盗、強盗、詐欺、といった犯罪の背景には、不平と不満の霊が満ちています。夫婦の問題、親子の問題、職場での問題でも、そこにさまざまな不平と不満、疑心が存在しています。そうした心を植え付けることに成功すれば、神から私たちを引き離すことも、あるいは神に近づけさせないようにすることができるということを悪魔は知っているのです。

●クリスチャンに対しても、「こんなに一生懸命、神に仕えているのに、それに見合った祝福を感じられない。」という不平や不満—たとえ、口に出さなくても、心の中にこのような思いが少しでもあれば、それだけで良いのです。

こんな家庭に生まれていなかったら、こんな障害をもって生まれてこなければ・・・

こんな辛い経験をしなければ、あの人がいなければ、私だって・・・という思いです。

もっとあんな裕福な家庭に生まれていたら、もっとチャンスに恵まれていれば・・・

私の才能を生かすことができたのに、もっとこうであったら、もっとああであったら・・・

・・・と心に不平不満がくすぶり続けている・・・

このような心の状態にすることで、サタンは私たちが自由に支配することができ、神から引き離すことができるのです。

## 2. みことばの力

●あるストレスを抱えていた女性がいました。そのストレスから、あるとき魔がさしたように店でものを盗んでしまいました。家で自分の心を押し込め、なんでも我慢して生きてきた彼女は、社会に出ても同じく、自分の心を押し込め、我慢して生きる生き方をしてきました。そうしたことが積み重なって、衝動的にものを盗むという行為に走ったようです。そんな彼女が、同じ職場に働くあるクリスチャン夫婦と出会いました。そしてその夫婦が主催する家庭集会にも出席するようになったと言います。クリスチャン夫婦の家庭にはある聖書のみことばが壁の額の中に飾ってありました。そこにはこんな聖書のことばが書いてありました。

「いつも喜んでいなさい。絶えず、祈りなさい。すべての事について、感謝しなさい。

これが、神がキリスト・イエスにあって、望んでおられることです。」(1テサロニケ 5:18)

## אגרת שאול אל האפסים

●彼女にとって、いずれも信じられない、ありえない言葉でした。彼女の心の反応は「こんなこと到底、私にはできない。」というものでした。しかし、何度もその夫婦の家に招かれて食事をしたり、聖書を一緒に学ぶようになったりしていくうちに、彼女の心が少しずつ変化してきました。そして、「いつも喜び、絶えず祈り、すべての事について感謝する。」 そんな生き方ができたらどんなにすばらしいだろう。そんな生き方をしてみたいという思いが起こって来て、神に祈ったそうです。その祈りは神に聞き届けられて、信仰が与えられて、彼女はイエシュアを知るようになり、神の子どもとして生きようになりました。彼女の心の渇きはむさぼるように神のことばを求めただけでなく、それを学ぶ意欲をも与えました。

●彼女は、救われる前には生理がありませんでした。しかし救われるとすぐに生理が始まりました。つまり女性としての体が正常に回復したのです。そして、数年して同じくクリスチャンの方と結婚し、子どもが与えられました。

●「いつも喜んでいなさい。絶えず、祈りなさい。すべての事について、感謝しなさい。これが、神がキリスト・イエスにあって、望んでおられることです。」とありますが、神は、私たちにただ望んで、要求だけをして、物見見物している方ではありません。神の恵みはそのような生き方ができるように助けてくださるのです。まさに、「神のことばは生きていて、力があり」(ヘブル 4:12)です。

●ヘブル語で「ことば」のことを「ダーヴァール」(דָּבָר)と言います。この「ダーヴァール」は、あることを伝達するための言語としての「ことば」という意味だけでなく、「出来事」という意味があります。つまり、神のことばはそれを聞く者に出来事(しかも奇蹟的な出来事)をもたらすという意味です。ですから、主は言われます。

雨や雪が天から降ってもとに戻らず、必ず地を潤し、それに物を生えさせ、芽を出させ、種蒔く者には種を与え、食べる者にはパンを与える。そのように、わたしの口から出るわたしのことばも、むなしく、わたしのところに帰っては来ない。必ず、わたしの望む事を成し遂げ、わたしの言い送った事を成功させる。」(イザヤ書 55:10~11)

●詩篇 19 篇 7~8 節にもそうした神のことばの力を経験した者のあかしの告白があります。

主のみおしえは完全で、たましいを生き返らせ、  
主のあかしは確かで、わきまえない者を賢くする。  
主の戒めは正しくて、人の心を喜ばせ、  
主の仰せはきよくて、人の目を明るくする。

●「主のみおしえ、あかし、戒め」といういろいろな表現がなされていますが、みな「神のことば」として一括できます。ひとつの宝石の輝きは多くのカットした面に光が当たることでその輝きが決まるように、神のことばもいろいろなカット面をもっていて、それがいろいろな表現になっているわけで、ひとつの宝石が意味するのは「神のみことば」なのです。

●その神のことばの性質は、この詩篇が紹介しているように、「完全」で、「確か」で、「正しく」で、ごまかし

のない「きよい」ものです。そんな性質を持つ神のことばの力は以下の力を持っています。

## ①「たましいを生き返らせます。」

●どんな失意の中にある者をも生き返らせます。自分に失望してしまっている者に希望と将来を与えて、生き返らせます。希望は私たちに生きる力を与えます。その希望を見出すことができないとき、人は自ら死を選ぶのです。

●私がかつて住んでいた町の炭鉱ではしばしば落盤事故が起こり、多くの人が生き埋めになりました。自分ではどうすることもできない状況に陥った者たちの中で、生き得た者と死んだ者がいました。生き得た者に共通なのは、必ず、助けが来るという希望を持ったことでした。しかし、絶望した者は生きることができませんでした。神のみことばは私たちに希望と将来を約束しています。「わたしはあなたがたのために立てている計画をよく知っているからだ。——主の御告げ。——それはわざわざではなくて、平安を与える計画であり、あなたがたに将来と希望を与えるためのものだ。」(エレミヤ 29:11)

## ②「わきまのない者(愚かな者)を賢くさせます。」

●大学に行かなくても、博士にならなくても知恵を持つことができ、賢い者となれるのです。人生のさまざまな問題に対処する知恵が与えられます。初代教会の担い手たち、イエシュアの弟子たちは、学識のある者もいましたが、多くは、無学のただ人でした。しかし、彼らには神からの知恵が与えられて、どんな者も彼らを打ち負かすことはできませんでした。

## ③「人の心を喜ばせます。」

●心が喜ぶというのは、自分という存在が大切にされ、愛されているという意識がなければ起こり得ません。作り笑いはできても、作り喜びはできないと言われます。神のことばは、神の私たちに対する愛の思いに溢れています。ラブコールに溢れています。そんな神のことばに溢れて生きるとき、不平不満の霊が支配する隙間はなくなります。

## ④「人の目を明るくさせます。」

●「目」とはユダヤ人的にはからだ全体を意味します。つまり、目が明るくなるというのは、からだ全体が健やかにになり、聡明さと真の明るさを持つようになるということです。頑張って人前で明るくパフォーマンスする必要はなくなるのです。そのようなパフォーマンスでの明るさはやがて自分を疲れさせるだけです。自然体でいいのです。自然体でも、主から愛され受け入れられているからです。いらぬ力を抜くことによって、私たちは健やかにになり、明るくなっていくのです。いつも眉間に皺を寄せるようなことがなくなります。これは主の働きです。

## 3. みことばの瞑想の勧め

## אגרת שאול אל האפסים

●神のことばは力があります。このようなみことばの力が私たちの中にも同様に実現されるならば素晴らしいことです。しかし、みことばの力が私たちのうちに働くためには、私たちの同意とそれを求める明確な意思が必要です。自分の同意と意思がないのに、神のことばが働くということはありません。今日、神のことばを聞くという環境は自然にはもたらされません。

●イエシュアは目が覚めるとどうしていたでしょう。前の日、夜遅くまでミニストリーをしていたとしても、朝、目を覚ますと、弟子たちからも離れて一人で御父と過ごしました。御父の語ることばを瞑想し、味わい、心に留め、心に潜めて、生きる生き方をしていました。テレビの音で目を覚ますようなことはありませんでした。なによりも、神とひとりになる時を自ら作られたのです。そのような生活スタイルを日ごろから作っていました。

●かつて、私の娘が生まれた頃、私の心は空っぽで飢え渴いていました。ピアノ教師をして収入を得てはいましたが、心はとても空しかったのです。子どもが生まれていますから、一人になると言ってもなかなか難しかったのです。そんなとき、私の心にひらめきが来ました。そうだ、近くにアパートでもなんでも一人になれる部屋を借りようと、部屋を探しました。そして、自転車で15分くらいの距離のところにあるアパートの一室を借りて、そこに午前三時頃から七～八時くらいまで、一人になり、聖書や信仰書をむさぼり読みました。家に帰ってからは妻と共に家庭礼拝がはじまります。聖書を読んでそれぞれ感じたことを分かち合うのです。あるときは見解の違いで喧嘩してしまったこともありましたが、その家庭礼拝は私たち二人の生活を変えました。私が神との一人の時間を持つようになってから、私の心は大きく変化していきました。神中心の家庭に変わって行きました。そして、二人とも、神に生涯をささげて、献身したのです。それから神学校に行き、正規に聖書を学ぶようになりました。

●ですから、聖書－神のみことば－を瞑想することは、私たちの人生に大きな出来事をもたらしていくと信じます。瞑想する時を獲得しなければなりません。どうすればそんな時間を持つことができるのか。この世の仕事に多くの時間を割いては、それは得られません。しかも一人だけで瞑想するよりも、二人でも三人でも共になすとき、特別な主の臨在があるようです。それは主が約束されていますが、実際に、サムエル・ミニストリーを通して、それを感じています。

●自分のたましいを生き返らせ、わきまえない自分を賢くし、自分の心を喜ばせ、自分の目を明るくするのは神のみことばだけです。なぜなら、神のみことばは生きていて、力があるからです。そんな経験を豊かに持てるなら、私も、そしてあなたの人生にも実り豊かな、30倍、60倍、百倍という私たちが、自分でも予想し得なかった収穫が約束されているのです。神のみことばがもっともっと、私たちの心の中に沈潜するために、私たちはみことばを瞑想するときに大切にしたいと思います。これからそのような時を持ちたいと願っているならば、神に祈りましょう。神はその祈りを聞かれます。必ず聞かれます。

●今回の説教題は「御霊の剣を取りなさい」でした。その剣はすでに与えられています。それを私たちは自ら手に取らなければなりません。どんな素晴らしい剣であっても使わなければ、戦いに勝利することができません。悪魔の策略に立ち向かうためには、単に、防御的な生き方ではなく、攻撃的な姿勢が必要です。「攻撃的な姿勢」とはどのような姿勢なのでしょう。試しにやってみましょう。先ほど、出てきました。テサロニケの手紙第一 5

## אגרת שאול אל האפסים

章のみことばを利用しましょう。

「いつも喜んでいなさい。絶えず、祈りなさい。すべての事について、感謝しなさい。」  
特に、最後のフレーズ、「すべてのことに感謝する」というみことばで攻撃しましょう。

### ①朝起きたとき

「主よ、感謝します。新しい一日も主が私とともにいてくださることを感謝します。あなたはいつもよい方です。ですから今日の一日も良い日です。(たとえ雨の日であってもハレルヤ)

### ②夜の休みのときも

「主よ、感謝します。今日もまた良い一日でした。ありがとうございます。」

●幸せである最大の秘訣は、今この瞬間に、心から感謝することです。感謝する一言で、今持っているもので満足し、感謝ができるのです。クリスチャン生活は「もっと」と言わずに感謝すると、それ以上が与えられるのです。今の状態に満足しなければ、いつまでたっても満足できません。今、満足して感謝すること—それが幸せの秘訣です。ありがとうございます。感謝します！ということをお口に、今日もまた御国の心地でした、というとき、サタンに対して攻撃していることになるのです。神の奇蹟は私たちが今を感謝し、今を満足することによってのみ与えられます。あるのは今の状態に対する感謝だけ、そのうえで、さらなる幸せを歓迎します。ハレルヤ！

●何に対しても、まずは感謝の気持ちを持つことです。奇蹟はそこから始まります。感謝の気持ちをもてば、奇蹟がもうはじまっていることに気づくはずですが、今もっているものに満足しない者は、欲しいものを手に入れても満足はしないのです。このようにして、「すべてのことについて感謝する」という御霊の剣を取るのです。神とのうるわしいかわりの中に生きるために、自ら、みことばの深みを日々味わい、自ら、みことばの知恵を日々与えられ、自ら、みことばの力に日々あずかって行くという戦いが一人ひとりに求められているのです。

「すべてのことについて感謝する」という御霊の剣をふりかざすことによって、私たちは多くのことに勝利できます。悪魔の策略である不平不満と疑心の霊に打つ勝つことができるのです。